

# 第2回定例会

3名の議員が理事者の考えを質しました。

・一般質問

## 一 般 質 問



安田 一彦 議員

### 佐呂間町のごみ処理事業について

【質問】

可燃ごみは遠軽町清掃センターにて処理しているが、清掃センターの更新計画が検討され、本年度中に「建替えるか、改修するか」結論を示すとのことですが、現段階の3町の話し合いの進捗状況についてお伺いいたします。

【答弁】（町長）

本町のごみ処理については、「生ごみと燃やすごみ」は遠軽清掃センターへ、「燃やさないごみと粗大ごみ」は知来の一般廃棄物処理場へ、「リサイクル資源」は上湧別リサイクルセンターで処理をしております。

遠軽町の清掃センターですが、現在2台の焼却炉を使用して平成5年より供用開始

可燃ごみを処理している  
遠軽町の清掃センターは  
建替えるのか？

町長 3町長の協議では、

建替える方向で進んでいる。

ており、遠軽町単独使用時は8時間燃やして16時間冷やす使用法でした。

しかし平成14年から旧7カ町村で使用するようになったため、16時間燃やして8時間冷やす使用方法となり、処理量のオーバーにより焼却炉の補修、維持費が毎年5千万円と増大。年数経過のため部品調達が困難。故障時に近隣市町村での委託処理が不可能であること。

これらのことから6月9日に3町長にて協議をし、建替える方向で話し合いは進められました。

内容は、今後広域組合にて管理運営する。場所は現在地。1200度の燃焼温度で処理する施設。新聞の中

では事業費は35億円となっておりますが、これから内容を詰める予定で平成24年度から進めたいと考えております。

【質問】

スプレー缶のごみの出し方については、穴をあけてガスを抜き、ごみとして出すことを指示されています。

しかし、各地で台所で缶に穴を開けて火災ややけどを負う事例があり、環境省は都道府県に対し「スプレー缶の収集方法を穴を開けずに収集する」よう収集方法の見直しを文書で促したそうですが、佐呂間町のスプレー缶の取り扱いはいかがお考えですか。

【答弁】（町民課長）

確かに札幌とかでは穴を開けて事故が発生しており、スプレー缶の出し方については、もう一度検討したいと思っておりますので、もう少し時間をいただきたいと思います。

【質問】

知来にある一般廃棄物最終処分場及び産業廃棄物最終処分場の今後の運営についてですが、特に一般廃棄物処分場は今後10年程度使用可能と

聞かれています。

今後、処理量が増えた場合、使用期間が短くなること  
が心配されますが、町長の運営に対する考えをお伺いいたします。

【答弁】（町長）

一般廃棄物処分場は、現在燃やさないごみと粗大ごみのみを埋め立てているが、処分場の今後の延命対策として幹部職員と現地調査の結果、ごみ搬入時の覆土の見直し、配水管がある一番低い場所を工夫し、埋め立て可能にする。これらにより20年以上は使用できる体制を組んでいきたい。

産業廃棄物の処分場は、廃プラスチックと木くずを中間処理施設で減量化しているが、1段目が一杯になれば2段目も遮水シートを張り延命を図りたいと考えています。

# 第2回定例会

・一般質問



小松正義 議員

## 町民意識調査の結果を

### どう受け止めるか！

町長、町の主役は町民であり、

回答、要望等を事業に反映したい。

## 第4期佐呂間町総合計画策定時に

### 実施された町民意識調査について

【質問】

グラフと表で見る佐呂間町民意識調査結果が掲載されているが、どのように受けとめられているか伺います。

【答弁】（町長）

自主自立の道を歩む佐呂間町として、地域の活性化をしていく主役は、ここに住む町民の方々であることを認識をさせていただくとともに、否定的な回答や今後の地域活性化に対する要望等も出されているのが事実で、行政を進める上で大いに参考にし、第4期佐呂間町総合計画を推進する事業の中で反映をさせていただきます。

【質問】

佐呂間町民の直近の意識の表れ貴重な資料、6、7割に

近い方々が住みやすい、定住したい意向を示しておられるが、反面佐呂間町のイメージでは明るくない、活気がない、特色的魅力がないと回答されています。

これは佐呂間町に住み続けたいと願う方々が、行政に自分たちが感じていることを変えてくださいという気持ちで表れていると感じますが、町長はどのように考えますか。

【答弁】（町長）  
町民のイメージについては、がく然という部分もあつたが、一つ一つフォローをして物事を進めたいと考えているのでご理解願います。

【質問】  
町づくり、活性化の表を見ると地域住民協力、地場産業

の生産向上に住民が協力し、雇用の場を広げたいという意識が表れています。

また環境性、個性的な活気に満ちた促進を期待する意見が表れているのですが、町長の考え方について伺います。

【答弁】（町長）

今までも基幹産業を発展させようと進めているところで、地域活性化は、町民の方々の協力を得なければ達成できるものではありません。行政がしゃばって手を加えるという形ではなく、皆が守り育て、環境を大切にしながら佐呂間町のイメージをしつかり全道、全国に発信していくことを伝えさせていたきたいと思います。

【質問】

本事業年度より始まる第4期総合計画で前期5カ年計画の実施に向けた基本的事業施

策について伺います。

前期5カ年にわたる間、実施状況管理について迅速に報告されることを望むことと、佐呂間厚生クリニックの改修が決議された場合、期間内の建設計画は変更されるのか伺います。

【答弁】（町長）

現状5年間の中には医師の確保が不可能という形で、今、手入れをしておりますが、この中で、医師が確保でき、厚生連毛病院復元をすることにすれば当然、総合計画にそって実施する考えはあります。

【質問】

医療問題体制について、特別委員会なり民間組織づくりで、医療の活性化、守る推進の考え方があるか伺います。

【答弁】（町長）

厚生クリニックばかりではなく、個人病院を含めた支援を議会ともどもやっていくという強いものがあれば、委員会的なものを立ち上げていただき、力を貸していただければと思います。

議会内で十分協議していただき決定してもらうことが望ましいと考えます。

# 第2回定例会

・一般質問



但木早苗 議員

## 原発事故を受け再生可能な自然エネルギーへの取り組みについて

【質問】

福島原発事故は、世界にも大きな衝撃と危機感をもたらし、それは原発依存のエネルギーから自然エネルギーへの転換の流れとなってきました。

平成23年度町政執行方針で町長は、化石燃料に変わる再生可能なエネルギーを普及促進のため太陽光発電システムを設置する町民に支援を行い、低炭素社会の構築に努めると掲げておりますが、事故後自然エネルギーへの取り組みの考えに変化はありましたか。また、遊休地を利用した太陽光発電の取り組みについて考えがあるのかお伺いします。

【答弁】（町長）

## 原発事故後の自然エネルギーの取り組みの考えは！

町長より効率的・効果的なエネルギーが出てきた場合は施策としても考えたい。

エコ対策を含め、低炭素社会に町も貢献しようとする太陽光発電の支持を打ち出したということです。

【質問】

遊休地利用の取り組みについては、事故後自然エネルギーの推進が重要視されておりますが、町としては現在実施している太陽光発電システムの補助制度を継続し、より効率的で効果的なエネルギーの導入が図られるものが出た場合には、新たな施策として実施していきたいと考えております。

【質問】

国の補助金が下がった中で今後太陽光発電システム設置事業を幅広く町民に普及するため、内容を検討する考えはありますか。

【答弁】（町長）

去年の実績で21件、驚異的な件数ではないかと思っております。

【質問】

太陽光発電の公共施設への設置は進んでいないようですが、考えをお伺いします。

【答弁】（町長）

公共施設の方まで考えていなかったのが本音です。そういったながらも今回の事故の中でこの問題を役場で論議しましたが、全ての公共施設において効率よく太陽光発電が利用できるものか検証を進めなければならぬと思っております。

【質問】

自然エネルギーに対して積極的な国の施策がない中でも、ニセコ町の小型水力発電、寿都村、苫前町の風力発電等取り組んで実績を上げていくところがありますが、太

陽光発電以外の自然エネルギーについての考えをお伺いします。

【答弁】（町長）

火力、水力、太陽光も含めて、どれが一番いいかも含めしっかりと勉強させていただき、国の対策がきたときに、いち早く名乗りを上げ実施できるようなことも含めて検討させていただきます。

【質問】

これからは感知式電灯やLED電球の利用等で節電対策も必要かと思いますが考えをお伺いします。

【答弁】（町長）

節電対策は職員一丸となりやっております。パークゴルフ場も利用者が電源を入れ、切つて帰ります。

LED電球の設置については、体育館から学校の照明と順次切り替えていっております。LEDは設置費は高いですが、節電になるということで年度計画を組みながら交換していきたいと考えております。

